

第390号

2014年

4月21日

どついたニュース

全損保日動外勤支部

東京都中央区銀座5-13-7

東銀座東京海上日動ビル1階

電話 03-3542-9857

FAX 03-3542-9858

教宣部 発行

団交開催、春闘要求主旨を説明

支部闘争委員会は3月28日、2014年度春闘要求についての団体交渉を行いました。冒頭、組合から私たちを取り巻く経済環境や損保を取り巻く環境を主張し、厳しい環境にあっても頑張りと努力をし続ける従業員の働きを主張し、要求内容を伝えました。これに対し会社は、真摯に検討することを約束しました。交渉内容は以下の通りです。

出席者

組合側) 執行部全員

会社側) 小西 GL、伊藤、桑田、浅野、橋詰、高木、松尾、田中

於：本館11F14号室 18:00～18:21

組合) 組合より要求の主旨を発言する前に、2月20日に亡くなった、梅津組合員の葬儀に対し、会社より手厚いご対応を賜り、お礼を申し上げます。現在本人の魂は、生まれ故郷である山形の雪深い御寺にて納骨を待っている状況だが、生前より必ず職場に復帰するとの皆への約束を果たせず、さぞかし無念のことだったと思われる。私も含め皆様方も、是非健康に留意され、この会社で最後まで職務、そして人生を真っ当されることを望んでいる。この場をお借りして、亡き本人に代わり、心より生前からのご厚情に感謝・御礼を申し上げます。

それでは2014年・春闘要求について述べる。

世界経済は、緩やかな成長を見せているものの、米国の量的緩和縮小策の影響や欧州の財政懸念と失業率の高止まり、中国を中心とした新興国の経済失速などが現実味を帯びる中、金融市場への影響が懸念され、世界経済は未だ不透明な状況にあると言える。

また日本では、政府の異次元の金融緩和策による円安・株高の進行により、企業業績は急激に回復し、各種経済指標は改善して来ているが、その恩恵は大企業と一部の富裕層のみにもたらされ、逆に中小零細企業や国民の生活に大きな負担をもたらす結果となっている。

このような状況から政府は、財界に対し賃上げを要請し、当社にも督官庁から要請があったと思うが、事実上のベアアップを容認した姿勢となっている。しかしながら各企業は個別経営事情と総人件費管理の原則を優先させる発言すると共に、グローバル社会に打ち勝つ国際競争の強化と先行き不透明な経済状況を強調して、資本の溜め込みや更なる合理化・効率化、労働分野の規制緩和を強く求め、国民・労働者への犠牲と痛みを優先する姿勢は相変わらず崩そうとはしていない。

その中で損保産業に目を移すと、大手3メガグループの12月決算では、過去最高益を記録するなど、業績は急激且つ大幅に改善されている。しかし保険本業の収益構造が他業界に多く依存している体質から、損害率を押し上げ、根本的な改善されないまま、収益は頭打ちになっている状況から各社共に「収益の確保と収益力の強化」を最優先に掲げ、合理化・効率化、即ち事業再編や合併、事業費削減の具現化を更に進めている。特にシステムの統合・改変、店舗統廃合、要員削減、希望退職、働き方の見直しが急ピッチに行われる一方で、マーケット拡大とシェア競争に打ち勝つ個々の努力を求められていることから、損保に働く労働者に矛盾が押し付けられ、働くものの誇りと生きがいを奪われ、社内モラルの低下やメンタルで休職する従業員を創り出し、結果として損保の社会的役割をも破壊させている状況になっている。

このような状況情勢の中で昨年、東京海上にとって20代目の社長が誕生し、永野体制での経営運営がスタートした。新社長は超保険を開発・販売推進や海外保険会社との合併を指揮して来た営業畑の出身である聞き、昨年の人事体制では営業経験者を全国に多く配置し、また様々な部署で管理職に女性を登用するなど、前任との違いを全面的に打出すスタートとなったが、経営政策戦略上では経済合理性を基本に「社内外問わず聖域無く改革を進め、常に業界No.1規模を確保しつつ、安定的に儲かる体質を完成させる、抜本改革の更なる推進」を引き継いだと感じている。

また新社長は就任挨拶の中でも、他の2メガグループの合併を意識して、東海日動社の合併先行のメリットと収保規模ではなく経営の質の高さを強調し、また本年初頭の挨拶では、国内損保業界が本業で頭打ちの状態が続く中で、国内損保+国内生保+海外保険の3事業を柱に、グローバルな保険グループを創ることで「東海日動社がこれからも選ばれ価値を提供し続けることが出来れば、この会社が長く存続することが出来る条件である」と言っている。そのためにも「全社員が一丸となり、中期計画・変革と実行2014・のスローガンである『お客様に品質をお届けし、選ばれ、成長し続ける会』『コンバインド・レシオ95%程度を安定的に維持できる会社』の実現に向け、結果や指標のみを追求せず、地に足の着いた営業力=地力以って更なる努力をすること」を全従業員に求めている。

この社長発言を受け全従業員は、純利益1位だけではなく、トップカンパニーにふさわしいすべてにおいて1位を奪還し、顧客に選ばれる会社を目指すことを目標に、損保事業における根本的な矛盾を抱えながらも、他の2メガグループとの厳しい顧客争奪戦に怯むことなく、様々な災害の対応にも真摯に対応し、全従業員は一丸となって最後の最後まで

本年度の会社業績向上と信頼構築のために努力を続け、懸命に働いている。私達、全損保日動外勤支部の組合員も社員との位置づけを決して忘れず、頑張ってきた自負心もあり、現場他の従業員も自身の役割を決して放棄せず、諦めずに頑張っている姿を見ている。したがって現在までの当社の業績だけでなく、指標や結果は、様々な分析があるにせよ、まさしく全従業員の汗と努力と頑張りによってもたらされていると確信する。

当支部ではこのような状況を踏まえ、執行部は分析・論議を重ね、2月に全国職場オルグを実施して意見集約を行い、3月8日の第136回支部臨時大会に於いてスト権をバックに全会一致で2014年度春闘要求が確立され、その後の全損保中央委員会にて本部承認を受けた要求である。

今要求は、私たち組合員全員の切実な思いを凝縮させ集約したものであり、真摯に受け止め、当支部の要求に沿った回答をされることを望む。

要求の各項目については、これより副委員長兼給対部長より説明させる。

(要求項目について読み上げ)

以上が当支部の要求になるが、本要求の打ち切り日を5月15日と設定している。真摯な対応と検討をされることと、闘争期間中に於いては、決して不当労働行為を行わないよう申し入れておく。

会社) まず、梅津さんについては本当に残念であり、あらためてお悔やみ申し上げたい。新社長になってから収益性は当然のこと、人にスポットを当てた政策をすすめ、人を軸にした経営を進めていくことにより、グッドカンパニーを目指すこととし、社内でも着実に広がってきていると感じている。引き続き顧客から選ばれる会社を目指してやっていきたい。

春闘の要求については、組合の主張は承知している。会社としても持ち帰り、十分に検討してみたい。組合より話があった通り、和解の主旨を踏まえ、検討したい。ただし、決算発表との関連もあり、打ち切り日に回答ができないことが考えられるので、そのことは了承願いたい。

組合) 組合の要求主旨を踏まえ、従業員の働きに報いる回答を期待する。

会社) 真摯に検討する。

以 上